

プログラム

【会長講演】

11月9日（土） 13時45分～14時15分（第1会場 大ホール）

座長：森 啓（大阪市立大学大学院医学研究科脳神経科学）

鑑別診断の重要性

天野 直二

信州大学医学部精神医学講座

【招請講演】

11月9日（土） 14時15分～15時15分（第1会場 大ホール）

座長：池田 修一（信州大学医学部脳神経内科，リウマチ・膠原病内科）

Amyloid in the molecular pathogenesis of dementia : lessons from A β and non-A β cerebral amyloidosis

Jorge A Ghiso

Departments of Pathology and Psychiatry, New York University School of Medicine, New York, USA

【特別講演】

11月8日（金） 14時00分～15時00分（第1会場 大ホール）

座長：水澤 英洋（東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科脳神経病態学
（神経内科学）分野）

若年性認知症の新たな病型，HDLS — 臨床像と病態 —

池田 修一

信州大学医学部脳神経内科，リウマチ・膠原病内科

【教育講演】

教育講演 1

11月8日（金） 13時00分～14時00分（第1会場 大ホール）

座長：天野 直二（信州大学医学部精神医学講座）

認知症疾患概念の成立と変遷

松下 正明

東京都健康長寿医療センター

教育講演 2

11月9日(土) 15時15分～16時15分(第2会場 中ホール)
 座長: 山口 晴保(群馬大学大学院保健学研究所)

Lewy body disease と認知症 — PDD, PD-MCI の話題を中心に—

中島 健二

鳥取大学医学部脳神経医科学講座脳神経内科学分野

シンポジウム 1 「認知症診断の最前線」

11月8日(金) 9時30分～11時30分(第1会場 大ホール)
 オーガナイザー/座長: 山田 正仁(金沢大学大学院脳老科・神経病態学(神経内科学))
 座長: 羽生 春夫(東京医科大学病院老年病科)

1. 画像からみた早期 Alzheimer 病の多様性
 金沢大学大学院脳老化・神経病態学(神経内科学) 佐村木美晴
2. レビー小体型認知症の早期診断
 筑波大学大学院人間総合科学研究科 水上 勝義
3. 嗜銀顆粒性認知症の診断
 鳥取大学医学部医学科脳神経医科学講座脳神経内科学分野 足立 正
4. プリオン病の新しい診断法
 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科感染分子解析学 佐藤 克也

(概要) 認知症疾患の診断に関する最新情報を呈示し討論する。認知症患者の過半数を占める Alzheimer 病 (AD) では、ADNI 研究が世界的規模で行われるなど、軽度認知障害、さらには発症前段階を含む早期診断に向けた取り組みが活発に行われている。一方、早期 AD の病態には患者さんごとに大きな違いがあるが、その多様性の解明は不十分であり、その理解は診断精度の向上につながる。AD に次いで多い認知症は血管性認知症あるいは Lewy 小体型認知症 (DLB) といわれている。近年、DLB を含む Lewy 小体病の病態や進展様式の多様性が明らかになり、うつ症状、睡眠障害、自律神経障害などの症状や所見に着目した DLB の早期診断が注目されている。さらに、嗜銀顆粒性認知症 (AGD) や神経原線維変化型老年期認知症 (SD-NFT) は高齢発症タウオパチーと呼ばれているが、臨床の現場では多くの患者で AD と誤診されている。急速進行性認知症の主な原因であるプリオン病については、近年、異常プリオン蛋白を脳脊髄液中から検出するという画期的な診断法がわが国で開発され臨床応用研究が進行している。本シンポジウムではこれらの話題について取り上げる。

シンポジウム 2 「J-ADNI 2013」

11月8日(金) 9時30分～11時30分(第2会場 中ホール)
 オーガナイザー/座長: 岩坪 威(東京大学大学院医学系研究科神経病理学)
 座長: 朝田 隆(筑波大学臨床医学系精神医学)

1. J-ADNI の総括と J-ADNI 2 の展望
 東京大学大学院医学系研究科神経病理学 岩坪 威
2. 臨床コアからの報告
 筑波大学医学医療系臨床医学域精神医学 朝田 隆
3. J-ADNI における認知機能評価
 公益財団法人脳血管研究所 杉下 守弘

4. J-ADNIにおけるPETデータの評価

国立長寿医療研究センター脳機能画像診断開発部 加藤 隆司

5. J-ADNIにおける生化学・遺伝学マーカーの評価

新潟大学脳研究所 桑野 良三

(概要) アルツハイマー病 (AD) 超早期段階における臨床・画像・バイオマーカーの自然歴を精密に計測・記載し、疾患修飾薬の治験における評価指標を確立、成功に導くことを目的とする ADNeuroimaging Initiative (ADNI) 研究が、本邦において J-ADNI として誕生して 7 年が経過した。後期健忘型 MCI を中心に 545 名の被験者について 3,500 ビジットを越える縦断研究データが蓄積され、今までにない規模で厳密な解析が進行中である。本セッションでは、J-ADNI から得られた様々な解析結果を紹介し、AD 超早期の自然経過に関して何が明らかになり、種々の画像・バイオマーカーがどのような意義付けを獲得したかを総括する。近年の認知症期 AD に対する疾患修飾薬治験の不調に鑑み、早期 MCI や、プレクリニカル AD (アミロイド病理陽性が疑われるが無症候の状態) など、さらなる早期段階を標的とした J-ADNI2 研究が本年より開始された。超早期の予防的治療を指向する新時代の AD 臨床研究のあり方についても議論を深めたい。

シンポジウム 3 「アミロイドーシス：異常構造タンパク質の沈着機構と病態」

11月8日(金) 9時30分～11時30分(第4会場 サブアリーナ)

オーガナイザー／座長：樋口 京一 (信州大学大学院医学系研究科疾患予防医科学系加齢生物学講座)

座長：長谷川成人 (東京都医学総合研究所認知症高次脳機能研究分野)

1. ヒトアミロイド線維形成・沈着の分子機構

福井大学医学部医学科分子病理 内木 宏延

2. 酵母プリオンを用いたアミロイドの構造多形と伝播機構の解明

独立行政法人理化学研究所脳科学総合研究センター 田中 元雅

3. Hsp40 はエクソソーム分泌により細胞非自律的なポリグルタミン病の治療効果を発揮する

国立精神・神経医療研究センター神経研究所疾病研究第四部 永井 義隆

4. Mechanism of disease progression in Lewy body diseases provides novel therapeutic opportunities.

Department of Biomedical Science and Technology, Konkuk University, Seoul, Korea Seung-Jae Lee

(概要) 近年、神経変性疾患の分子病態において、異常構造タンパク質が注目されている。アミロイドーシスは、本来生理的構造を持つタンパク質が、線維状構造 (アミロイド線維) に重合し、分解、処理を免れて沈着する疾患群であり、30 種類以上報告されている。アミロイドーシスに共通する沈着機構として、異常構造タンパク質が seed となってタンパク質の正常構造を異常構造へと変換させ、それらが凝集体を形成するというモデルが提唱されている。さらに凝集体が細胞間や個体間で伝播され、次第に拡がって行くことが確認されており、このような現象はプリオンタンパク質で見られるものと類似しているため、プリオン様伝播現象とも呼ばれている。シンポジウムではアミロイドーシスにおける異常構造タンパク質の沈着や伝播現象の基礎的メカニズムから、神経変性疾患の病態の進展までに関する最新の知見を紹介する。

シンポジウム 4 「認知症の幻覚妄想」

11月8日（金） 13時00分～15時00分（第2会場 中ホール）

オーガナイザー／座長：武田 雅俊（大阪大学大学院医学系研究科精神医学教室）

座長：埴原 秋児（信州大学医学部保健学科）

1. 妄想性誤認症候群と認知症

埼玉医大総合医療センター メンタルクリニック 深津 亮

2. Charles Bonnet 症候群と家に他人がいる妄想

信州大学医学部精神医学講座 萩原 徹也

3. コタール症候群と認知症の抑うつ

熊本大学医学部附属病院神経精神科 藤瀬 昇

4. 音楽性幻聴

和歌山県立医科大学医学部神経精神医学教室 鶴飼 聡

5. 夕暮れ症候群とせん妄

横浜市立大学附属市民総合医療センター精神医療センター 小田原俊成

6. 鏡像認知と自己意識障害

慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室 三村 将

（概要）BPSD の中でも幻覚妄想の頻度は高く、幻覚では18%、60%、妄想では10%、38%の時点、および、5年間有病率が報告されているが（IPA Complete Guide to BPSD, 2012）、それぞれの認知症に特徴的な幻覚妄想状態が知られている。また幻覚妄想は一般高齢者にもみられるものであり、古くからカプグラ症候群、フレゴリー症候群、コタール症候群、シャルルボンネ症候群、夕暮れ症候群、皮膚寄生虫妄想、鏡現象、音楽性幻聴などについての精神病理学的検討がなされている。認知症患者の幻覚妄想は、脳の生理的老化に伴う精神症状として理解できる部分もあれば、それぞれの認知症に特徴的な病理過程として理解できる部分もある。このような背景に基づいて、このシンポジウムでは認知症の各疾患における幻覚妄想の発症機序について討論していただきたい。

シンポジウム 5 「基礎Ⅰ 炎症とアルツハイマー病・認知症」

11月8日（金） 13時00分～15時00分（第4会場 サブアリーナ）

オーガナイザー／座長：道川 誠（名古屋市立大学大学院医学研究科病態生化学）

座長：樋口 真人（放射線医学総合研究所分子イメージング研究センター）

1. アルツハイマー病脳における神経炎症

東京都医学総合研究所 秋山 治彦

2. アルツハイマー病の慢性炎症機序におけるミクログリアの役割

名古屋大学環境医学研究所免疫系分野神経免疫学講座 水野 哲也

3. ミクログリアのサブタイプと認知症病態における役割

名古屋大学環境医学研究所脳機能分野 澤田 誠

4. アルツハイマー病における神経炎症関連分子の生体イメージング

放射線医学総合研究所 季 斌

5. 非ステロイド抗炎症薬の抗アルツハイマー病効果の分子機構と創薬

慶應義塾大学薬学部 水島 徹

(概要) アルツハイマー病 (AD) は老化や遺伝子変異のほか、脳内炎症が amyloid β 蛋白質 ($A\beta$) の代謝・蓄積などの分子病態に影響するとされる。一方、 $A\beta$ 沈着などが逆に炎症を惹起させ、シナプス障害や神経細胞障害を進めるとされる。昨年、AD における TREM2 遺伝子変異の関与が報告され、発症機序における炎症の関与が改めて注目されている。本シンポジウムでは、(1) 脳内炎症とアルツハイマー病病態との関連を、まず議論の基盤となる AD 脳において検証するために神経病理学の視点から議論を開始する。(2) 更に、神経免疫担当細胞であるミクログリアは、AD の中核病理である老人斑と神経原線維変化の蓄積にともない活性化するのみならず、これらの病変形成や神経変性に大きな影響を及ぼすことが明らかになっている。ミクログリアの活性化は、 $A\beta$ 凝集体を除去する神経保護的機能を発揮することもあれば、サイトカイン産生分泌を介して神経毒性を発揮することもあり、ミクログリアの機能制御を含めた視点から議論する。(3) また、炎症とアルツハイマー病との関連をイメージングで可視化・評価する研究について議論するとともに、(4) NSAID の予防・治療効果からみた炎症の関与について検証し、議論する予定である。

シンポジウム 6 「認知症治療の最前線」

11月9日(土) 9時30分～11時30分(第1会場 大ホール)

オーガナイザー／座長：新井 平伊(順天堂大学大学院医学研究科精神・行動科学)

座長：繁田 雅弘(首都大学東京人間健康科学研究科)

1. 中核症状に対する薬物治療：症状改善薬と疾患修飾薬
東北大学加齢医学研究所脳科学研究部門老年医学分野 荒井 啓行
2. BPSD の薬物療法：現時点における戦略とは
首都大学東京人間健康科学研究科 繁田 雅弘
3. 認知症の非薬物療法の意義とその実際：リハと診察室での実践を中心に
群馬大学大学院保健学研究科 山口 晴保
4. 認知症の理解と、支援の輪を作るために
川崎幸クリニック内科 杉山 孝博

(概要) 2011年、アルツハイマー病 (AD) の治療は、アセチルコリンエステラーゼ阻害薬3剤と NMDA 受容体拮抗薬の計4剤体制になり、ようやく国際標準化されたといえる。しかし、AD を中心とした認知症治療において薬物を処方するだけに終始することは臨床的に不十分であり、厳に避けねばならない。中核症状である認知障害に対する治療だけでなく、BPSD の治療も重要であり、リハビリテーションも含め非薬物療法や介護も重要であろう。そして、認知症の人と家族そして環境、これらの観点からの介入が必要であり、いわば包括的支援が重要といえる。シンポジウムタイトル「治療の最前線」には研究の最前線から実臨床の最前線までを含むが、そのためここでは各領域の第一人者に、最新の情報と共に臨床第一線の立場をふまえて総括して頂くことで、明日からの実臨床に役立つことを目指した。

シンポジウム 7 「脳小血管病と血管性認知症；その予防と治療戦略」

11月9日(土) 9時30分～11時30分(第2会場 中ホール)

オーガナイザー／座長：富本 秀和(三重大学大学院神経病態内科学)

座長：松本 昌泰(広島大学大学院医歯薬保健学研究院脳神経内科学)

1. 脳小血管病；血管性認知症・アルツハイマー病の混合病態の背景因子
三重大学大学院神経病態内科学 富本 秀和
2. 脳小血管病と炎症機転—血管炎症制御は認知症予防に有効か—
大阪大学神経内科学脳卒中センター 北川 一夫

3. 老年症候群からみた脳小血管病

国立長寿医療研究センターもの忘れセンター 櫻井 孝

4. 高血圧性細小動脈血管病の治療

京都第二赤十字病院脳神経内科 山本 康正

(概要) 血管性認知症の半数を占める脳小血管病はラクナ梗塞、白質病変などの高血圧性脳小血管病がその代表である。これらの変化はアルツハイマー病との合併（混合型認知症）や脳卒中後認知症でも高率に認められる。混合型認知症、脳卒中後認知症、VCI-ND（Vascular cognitive impairment-no dementia）までを包括する概念として、VCIのガイドラインが2011年にAHA/ASAから提案された。その意図するところは血管性認知症とその周辺病態を予防・治療優先の立場から捉えなおすことにある。本シンポジウムでは、血管性認知症の中核となる高血圧性脳小血管病、特にビンスワンガー病とその周辺病態の関連を洗い直し、古くて新しい問題を取り上げ議論する。脳小血管病と脳内炎症の関わり、認知症を伴う脳小血管病の降圧目標や抗血小板療法の実施基準、老年症候群や生活習慣病の立場からみた脳小血管病について、現時点での到達点を明らかにし明日からの診療に生かすことを目指す。

シンポジウム 8 「基礎Ⅱ 認知症研究のためのリソース」

11月9日（土） 9時30分～11時30分（第4会場 サブアリーナ）

オーガナイザー／座長：岩田 修永（長崎大学大学院医歯薬学総合研究科）

座長：大河内正康（大阪大学医学部精神医学教室）

1. アルツハイマー病患者由来 iPS 細胞を用いた研究の現状と展望

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 岩田 修永

2. 次世代型アルツハイマー病モデルの作製と応用

理化学研究所脳科学総合研究センター神経蛋白質制御研究チーム 西道 隆臣

3. タウオパチーマウスモデル：創薬研究リソースとしての有効性

フロリダ大学医学部神経変性疾患トランスレーショナルリサーチセンター 佐原 成彦

4. ES 細胞は、遺伝子改変マウス作製に必要な不可欠の存在か？

大阪大学大学院医学系研究科 竹田 潤二

(概要) アルツハイマー病研究の世界的な動向は病態メカニズムの解析から創薬研究にシフトしつつあります。しかし、実際の創薬研究は試行錯誤の状態にとどまっており、逆に病態メカニズムには未だ不明な部分が多いと考えられるようになってきています。アルツハイマー病の病態メカニズムを再検討するには、最新の創薬プラットフォームを駆使して今までの研究成果に立脚した新領域を創造していかねばなりません。さらに、その新理解に基づく創薬研究を *in vitro* および *in vivo* で平行して進めていく必要があります。本シンポジウムでは、認知症研究に応用可能なリソースとして、新しいマウスあるいは細胞モデルについての情報を提供すること目的としています。国内外で活躍される先生方にこれまでの病態モデルを概説して頂き、それぞれの利点や固有の欠点を示しつつ次世代の病態モデルの優位性や新規モデルの開発技術などご紹介頂き、今後の方向性について議論する予定です。フロアーからの活発なご質問やご意見を歓迎致します。

シンポジウム 9 「前頭側頭葉変性症」

11月9日（土） 15時15分～17時15分（第1会場 大ホール）

オーガナイザー／座長：池田 学（熊本大学大学院生命科学研究部神経精神医学分野）

座長：新井 哲明（筑波大学医学医療系臨床医学域精神医学）

1. 患者脳に蓄積した TDP-43 のプリオン様性質

東京都医学総合研究所認知症プロジェクト 野中 隆

2. 家族性 FTLD —欧米とアジアの比較を中心に—
 熊本大学大学院生命科学研究部神経精神医学分野 福原 竜治
3. FTD (bvFTD) の新たな国際診断基準と問題点
 福岡大学医学部精神医学教室 尾籠 晃司
4. 原発性進行性失語 (PPA) の国際診断基準と FTLD —進行性非流暢性失語と意味性認知症—
 財団新居浜病院臨床心理科 小森憲治郎

(概要) 前頭側頭葉変性症 (Frontotemporal lobar degeneration: FTLD) は、古典的な Pick 病を中核とした概念であり、脳の前方部に進行性的変性を呈し、行動障害や言語障害を主徴とする非アルツハイマー型変性性認知症の総称である。最近の FTLD に関する神経病理学的、分子遺伝学的進展は目覚ましく、これらの成果をふまえて前頭側頭型認知症 (FTD ないし bvFTD) に関する診断基準が改訂された (Rascovsky K, et al.)。また、意味性認知症 (SD) と進行性非流暢性失語 (PNFA) も、進行性失語の観点から診断基準が改訂された (Gorno-Tempini ML, et al, 2011)。本シンポジウムでは、これらの改訂された診断基準のポイントと、その背景にある分子生物学的な新知見について論じていただく予定である。

シンポジウム 10 「わが国の認知症国家戦略」

11月10日(日) 10時00分~12時00分(第1会場 大ホール)

オーガナイザー/座長: 栗田 圭一 (東京都健康長寿医療センター研究所)

座長: 鷺見 幸彦 (独立行政法人国立長寿医療研究センター脳機能診療部)

1. 今後の認知症施策の方向性について
 厚生労働省老健局高齢者支援課認知症・虐待防止対策推進室 勝又 浜子
2. 今後の認知症医療—かかりつけ医, サポート医, 一般病院の役割と人材育成の重要性—
 独立行政法人国立長寿医療研究センター脳機能診療部 鷺見 幸彦
3. 認知症に対する精神科医療
 医療法人社団淵野会緑ヶ丘保養園 渕野 勝弘
4. 自治体との協働による認知症初期集中支援チーム・モデル構築の試み
 医療法人清山会いずみの杜診療所 山崎 英樹
5. 認知症の在宅医療の推進と地域包括ケアシステム
 医療法人社団つくし会 新田 國夫

(概要) 2012年6月18日に厚生労働省より「今後の認知症施策の方向性について」が公表され、9月5日に「認知症施策推進5か年計画(オレンジプラン)」が提示された。これらは、現時点でのわが国の認知症国家戦略の大枠を示すものである。その後、本報告については、関係する組織・団体からさまざまな意見が出されている。認知症国家戦略を、より洗練された、明確かつ具体的で、実現性の高いものとしていくためには、学際的な場で、現実的な議論を重ねていく必要がある。本シンポジウムでは、オレンジプランの概要と進捗を示した上で、認知症の早期診断・早期対応を実現するための体制整備、認知症地域医療支援事業(かかりつけ医・サポート医)の今後のあり方、一般病院や救急病院における認知症の医療体制、認知症疾患医療センターを拠点とする地域連携体制の推進、在宅医療の推進、認知症の人の暮らしを支える地域包括ケアシステム、人材育成について議論しておきたい。

シンポジウム 11 「＜放浪する認知症＞—彼らはどこでどう生きるのか？—」

11月10日（日） 10時00分～12時00分（第4会場 サブアリーナ）

オーガナイザー／座長：阿保 順子（長野県看護大学）

座長：西川 勝（大阪大学コミュニケーションデザイン・センター）

1. 長野県の認知症対策

長野県健康福祉部 眞鍋 馨

2. 認知症対策 点から面へ

信濃毎日新聞松本本社報道部 小松 恵永

3. 超高齢化地域の現状と課題

長野県立阿南病院 田中 雅人

4. 地域に根ざした信州モデル

国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所社会精神保健研究部 伊藤 弘人

（概要）認知症は老化の一状態像として処遇されてきた長い歴史をもつ。医学の進歩に伴い、認知症は病気として医療化された。その後、高齢社会の到来による医療費削減の必要性から脱医療化の方向へと向けられた。そして今、その施策の綻びから、一部の認知症患者は行き場を失い精神病院へと帰ってきた。処遇のバクトルは再度医療化に傾きつつある。だから、認知症は医学・医療問題としてのみ扱うことはできない。本シンポジウムでは、認知症を取り巻く諸問題を、老いを捉える視線である人間観の問題、医療化と脱医療化という認知症の社会的位置づけ、認知症や老人を支える場としての共同体、認知症患者の生物学的な変化に対応する具体的な支援方法の4つの側面から考えてみたい。具体的には、こういった認知症問題の「いま」が凝縮されている「場」である一つの「地域」を、長野県全体を「地」としてできあがっている「図」として点検してみる。

ホットトピックス徹底討論「新時代に向けたタウオパチー研究集中講座」

11月10日（日） 13時30分～15時30分（第3会場 国際会議室）

オーガナイザー／座長：宮坂 知宏（同志社大学生命医科学部医生命システム学科神経病理学）

座長：新井 哲明（筑波大学医学医療系臨床医学域精神医学）

1. タウオパチー病理変化の基礎

筑波大学医学医療系臨床医学域精神医学 新井 哲明

2. 神経原線維変化の解析から学ぶべきもの

同志社大学生命医科学部医生命システム学科神経病理学 宮坂 知宏

3. 抗タウオパチー療法開発、現状とその焦点

国立長寿医療研究センター認知症先進医療開発センター分子基盤研究部 添田 義行

4. タウイメージング用PETプローブの現状

東北大学病院臨床研究推進センター 工藤 幸司

（概要）1980年代、確かにタウはアルツハイマー病研究の中心的課題であった。しかし、後のFTDP-17変異の同定・モデル動物の開発を経てもなお、本質的な理解に関して大きな進展のない時代が続いた。2008年、タウ重合阻害薬「メチレンブルー」の有効性に関する報告は認知症研究の世界に大きな衝撃を与えた。現在、タウオパチー研究は隆盛を極め、創薬ターゲットとしての新たな時代を迎えている。タウオパチーの解明、治療法開発の成功には、新たな研究者の参入や斬新なアイデアが必須であり、伝統と革新の融合がブレイクスルーをもたらすと考えている。本討論会では、タウ研究に必須な病理・生化学的基礎知識から治療薬開発に至る最新の情報を提供して頂く。抗タウ療法は可能なのか？ タウオパチー研究者のみならず、タウ研究を目指す方々や僅かでもタウに興味のある方々にご参加頂き、初歩的質問から専門的な問題提起まで忌憚のない討論を頂きたい。

Neuro CPC

11月9日(土) 9時30分～11時30分(第3会場 国際会議室)

座長: 池田 研二(香川大学医学部炎症病理学)

座長: 吉田 眞理(愛知医科大学加齢医科学研究所)

1. 90歳で発症した認知症の1例

東京都健康長寿医療センター高齢者ブレインバンク	高尾 昌樹
東京都健康長寿医療センター高齢者ブレインバンク	村山 繁雄
東京都健康長寿医療センター神経内科	江口 桂

2. 家族歴を有する51歳発症の認知症症例

宮崎県大悟病院老年期精神疾患センター	三山 吉夫
信州大学医学部神経難病学講座分子病理学部門	井上 輝彦
信州大学医学部神経難病学講座分子病理学部門	小柳 清光

【特別企画】「アルツハイマー病疾患修飾薬の臨床試験: 治験と承認審査の最先端」

11月10日(日) 13時30分～15時30分(第1会場 大ホール)

オーガナイザー: 岩坪 威(東京大学大学院医学系研究科神経病理学)

オーガナイザー/座長: 森豊 隆志(東京大学医学部附属病院早期・探索開発推進室)

1. アミロイド仮説の検証—抗アミロイドβ抗体 Solanezumab の臨床試験結果—

日本イーライリリー株式会社 並木 千尋

2. アルツハイマー病治療薬の臨床評価ガイドラインの策定に向けて

東京大学医学部附属病院早期・探索開発推進室 本橋 慧樹

3. PMDAにおけるイノベーションへの取り組み(薬事戦略相談, 科学委員会)

独立行政法人医薬品医療機器総合機構審査等改革本部 安藤 剛

(概要) アルツハイマー病(AD)疾患修飾薬は、ADを対象にした臨床試験でこれまで有効性の検証に成功したものではなく、臨床試験の対象が認知症症状発症前の prodromal AD (MCI due to AD) や無症候期 (preclinical AD) を含む、超早期へ目が向けられてきている。このような状況を踏まえ、本年2月にはFDAから、「Guidance for Industry, Alzheimer’s disease: Developing drugs for the treatment of early stage disease, Draft guidance」(draft) が出された。本邦においても、平成24年から厚生労働省の「革新的医薬品・医療機器・再生医療製品の実用化促進事業」が始まり、規制当局とアカデミアが協同して実施する「AD治療薬の臨床評価基準を策定するためのレギュラトリーサイエンス研究」が始まった。

この特別企画では、ADの疾患修飾薬の開発における現状と課題、また開発を促進する取り組みについて、産・学・官のそれぞれの立場から概説していただく。

【公開シンポジウム】「多職種協働による認知症ケアの地域連携—各職種における課題と展望」

11月10日(日) 13時30分～15時30分(第4会場 サブアリーナ)

オーガナイザー/座長: 前田 潔(神戸学院大学総合リハビリテーション学部)

座長: 栗田 圭一(東京都健康長寿医療センター研究所)

1. 課題と展望 訪問診療の経験から

医療法人社団こだま会こだまクリニック 木之下 徹

2. 長野県安曇野市での認知症疾患診断・治療ネットワーク構築活動の経験から

ミサトピア小倉病院 岸川 雄介

3. 認知症ケアにおける訪問看護の役割

(株) ケアーズ 白十字訪問看護ステーション
NPO 白十字在宅ボランティアの会 暮らしの保健室 秋山 正子

4. 介護支援専門員の認知症介護サービスのコーディネーターとしての課題

一般社団法人日本介護支援専門員協会 助川未枝保

5. 多職種協働を実践する重度認知症患者デイケアと地域連携—作業療法士の立場から—

神戸学院大学総合リハビリテーション学研究所 尾寄 遠見

6. 患者家族の立場から見た地域連携

認知症の人と家族の会 長野県支部 小笠原裕子

(概要) 認知症では経過が長期にわたり、その間患者・家族には様々な困難が出来てくる。その困難は様々であり、認知症専門医、かかりつけ医、介護・福祉の専門職が連携を保ちながら対応しなければ、患者・家族の要求にこたえる適切な支援を提供することができない。

認知症のケアにおいては、医師の間でも専門医とかかりつけ医の連携が重要である。専門医がかかりつけ医と連携のもと、認知症患者への適切な専門医療の提供体制が構築されているか。また認知症の患者さんは当然ながら認知症だけでなく他の身体疾患を併発するが、必要な身体医療が認知症の患者さんにも提供されているか。これらの疑問についてすぐさま首肯することは難しいと考えられる。

医師と非医師医療職との連携はもっと困難な状況である。非医師専門医療職には連携において医師にたいし根深い不信があるといわれている。

本公開シンポジウムでは様々な職種の代表者が、それぞれの立場から、他職種協働による認知症ケアの地域連携について現状を分析し、課題を明らかにすることを目的である。

【学会賞受賞記念講演】

11月8日(金) 10時30分～11時30分(第3会場 国際会議室)

座長：秋山 治彦(東京都医学総合研究所)

1. Lewy小体型認知症の精神症状の特性と神経生理学的基盤

滋賀県立成人病センター老年内科・神経内科 長濱 康弘

2. TDP-43, FUS/TLSとAtaxin 2によるALS/FTLD-Uの分子病態

慶應義塾大学医学部神経内科 伊東 大介

ランチョンセミナー 1 認知症疾患治療ガイドラインから考える

アルツハイマー型認知症治療薬の使用

11月8日(金) 11時45分～12時45分(第1会場 大ホール)

座長：富本 秀和(三重大学大学院医学系研究科神経感覚医学講座神経病態内科学)

演者：中島 健二(鳥取大学医学部脳神経医科学講座脳神経内科学分野)

共催：ノバルティスファーマ株式会社

ランチョンセミナー 2 パーキンソン病とレビー小体型認知症 —分子病理学 update と精神症状の対処法—

11月8日(金) 11時45分～12時45分(第2会場 中ホール)

座長：水澤 英洋(東京医科歯科大学脳神経病態学分野)

演者：高橋 牧郎(日本赤十字社大阪赤十字病院神経内科, 京都大学医学部)

共催：グラクソ・スミスクライン株式会社

ランチョンセミナー 3 DLBの診断, 治療からケアまで

11月8日(金) 11時45分~12時45分(第3会場 国際会議室)

座長: 小阪 憲司(メディカルケアコート・クリニック)

演者: 羽生 春夫(東京医科大学高齢総合医学講座)

共催: 日本メジフィジックス株式会社

ランチョンセミナー 4 血管老化と認知症: 血管・神経連関の概念

11月9日(土) 11時45分~12時45分(第1会場 大ホール)

座長: 遠藤 英俊(国立長寿医療研究センター内科総合診療部)

演者: 秋下 雅弘(東京大学大学院医学系研究科加齢医学講座(老年病科))

共催: 第一三共株式会社

ランチョンセミナー 5 未病の視点から見るアルツハイマー病

11月9日(土) 11時45分~12時45分(第2会場 中ホール)

座長: 羽生 春夫(東京医科大学高齢総合医学講座)

演者: 荒井 啓行(東北大学加齢医学研究所脳科学研究部門老年医学分野)

共催: 株式会社ツムラ

ランチョンセミナー 6 認知症診療におけるイメージング法の確立に向けて

11月9日(土) 11時45分~12時45分(第3会場 国際会議室)

座長: 鳥羽 研二(独立行政法人国立長寿医療研究センター)

演者: 片山 禎夫(川崎医科大学神経内科学)

共催: 小野薬品工業株式会社

ランチョンセミナー 7 認知症の包括ケアにおける抗認知症薬の意義: 医療介護の統合エビデンスを目指して

11月10日(日) 12時15分~13時15分(第1会場 大ホール)

座長: 森 啓(大阪市立大学大学院医学研究科老年医科学大講座脳神経科学)

演者: 目黒 謙一(東北大学大学院医学系研究科高齢者高次脳医学)

共催: エーザイ株式会社

ランチョンセミナー 8 生活習慣病と認知症

11月10日(日) 12時15分~13時15分(第2会場 中ホール)

座長: 井関 栄三(順天堂大学付属病院順天堂東京江東高齢者医療センター)

演者: 神崎 恒一(杏林大学医学部高齢医学教室)

共催: ヤンセンファーマ株式会社/武田薬品株式会社

ランチョンセミナー 9 壮年期以降に発症するてんかんとその精神科的問題

11月10日(日) 12時15分~13時15分(第3会場 国際会議室)

座長: 朝田 隆(筑波大学医学医療系臨床医学域精神医学)

演者: 兼本 浩祐(愛知医科大学医学部精神科学講座)

共催: 大塚製薬株式会社/ユーシービージャパン株式会社

モーニングセミナー 1 The Neurobiology of Alzheimer's Disease : Progressing From the Inside Out

11月9日(土) 8時30分～9時30分(第2会場 中ホール)

座長: 朝田 隆(筑波大学医学医療系臨床医学域精神医学)

演者: Harald Hampel (Professor of Neuroscience, Université Pierre et Marie Curie, L'Institut de la Mémoire et de la Maladie)

共催: 日本イーライリリー株式会社

モーニングセミナー 2 非AD型認知症と抑うつ状態

11月9日(土) 8時30分～9時30分(第3会場 国際会議室)

座長: 関 健(社会医療法人城西医療財団)

演者: 池田 学(熊本大学大学院生命科学研究部神経精神医学分野)

共催: ファイザー株式会社

イブニングセミナー 1 前頭側頭葉変性症における病態の変容, 周辺疾患, 治療について

11月9日(土) 16時30分～17時30分(第2会場 中ホール)

座長: 金谷 潔史(東京医科大学八王子医療センター高齢診療科)

演者: 河野 和彦(名古屋フォレストクリニック)

共催: 株式会社グロービア

イブニングセミナー 2 認知症の前駆状態としてのうつ病 —認知症に移行しやすいうつ病とは?—

11月9日(土) 16時30分～17時30分(第3会場 国際会議室)

座長: 新井 平伊(順天堂大学医学部附属順天堂医院メンタルクリニック)

演者: 馬場 元(順天堂大学大学院医学研究科精神・行動科学)

共催: 塩野義製薬株式会社

アフタヌーンセミナー 1 治療につなげる画像検査活用術

11月8日(金) 15時00分～16時00分(第3会場 国際会議室)

座長: 古川 芳明(順天堂大学医学部附属順天堂東京江東高齢者医療センター脳神経内科)

演者: 和田 健二(鳥取大学医学部脳神経科学講座脳神経内科分野)

共催: 富士フイルム RI ファーマ株式会社

後援: 日本脳神経核医学研究会

【ポスター発表・討論】

演題番号 奇数：11月8日（金） 16時15分～17時45分（ポスター会場 1F メインアリーナ）

演題番号 偶数：11月9日（土） 17時30分～19時00分（ポスター会場 1F メインアリーナ）

<Aβ 関連（代謝等）>

- 001 APP-Tg マウス脳ならびに培養細胞における温度依存的 Aβ 代謝の検討
名古屋市立大学大学院医学研究科 布目 真梨
- 002 グリア系培養細胞上清中に含まれるセリンプロテアーゼ様 Aβ 分解活性の解析
東京大学大学院医学系研究科加齢医学講座 木棚 究
- 003 Aβ 産生に伴うトリペプチド放出の規則性の検証
同志社大学大学院生命医科学研究科 池田享太郎
- 004 脳アミロイド斑構成成分 CLAC が Aβ の凝集・蓄積に及ぼす影響に関する検討
東京大学大学院医学系研究科神経病理学分野 柏木 眞結
- 005 カテコール型フラボノイド類のアミロイド β 凝集抑制機構
京都大学大学院農学研究科 佐藤 瑞穂
- 006 レプチンは神経細胞膜表面からの Aβ 重合体形成を抑制する
立命館大学薬学部薬学科 山本 直樹
- 007 γ セクレターゼ活性阻害タンパク質 p24α2 のシナプス局在
滋賀医科大学分子神経科学研究センター 劉 磊
- 008 APPC 末断片を発現させた培養細胞のプロテオミクス解析
公益財団法人東京都医学総合研究所認知症・高次脳機能研究分野 亀谷富由樹
- 009 アルツハイマー病患者 iPS 細胞由来神経系細胞における Aβ オリゴマーの細胞毒性
長崎大学大学院医歯薬学総合研究科薬品生物工学研究室 中野 梨絵
- 010 アミロイド β オリゴマー誘発神経細胞死に対する抑肝散成分の保護作用
(株) ツムラ製品戦略本部ツムラ研究所 菅野 仁美

<Aβ 関連（蓄積等）>

- 011 アルツハイマー病の重篤化メカニズム解析
国立長寿医療研究センター 創薬モデル動物 小又 尉広
- 012 Angiotensin type 1a receptor regulates amyloid plaque formation
岩手医科大学薬学部神経科学講座 鄒 鶴
- 013 モデル動物を用いた脳アミロイド蓄積と鼻粘膜 Aβ との関連性の評価
滋賀医科大学分子神経科学研究センター 亀島 直子
- 014 血液透析患者の脳皮質内 Aβ 沈着は対照高齢者に比して少ない
藤田保健衛生大学医療科学部臨床工学科 酒井 一由

<Aβ 関連 (その他), α-synuclein, tau>

- 015 血液浄化によるアルツハイマー病治療法の開発へ～認知機能評価用モデル動物の作成～
藤田保健衛生大学医療科学部臨床工学科 川口 和紀
- 016 Cross-seeding effects of amyloid β-protein and α-synuclein
金沢大学脳老化・神経病態学 (神経内科) 小野賢二郎
- 017 老齢ネコ科動物の脳における β アミロイド沈着と高リン酸化タウの蓄積
麻布大学大学院獣医学研究科獣医病理学研究室 高橋映里佳
- 018 タウ発現培養細胞を用いた Aβ からタウにいたる経路の解析
(独) 国立長寿医療研究センター認知症先進医療開発センター
アルツハイマー病分子病態・治療開発プロジェクトチーム 吉池 裕二

<アルツハイマー病等のバイオマーカー関連>

- 019 AD バイオマーカーの長期的変化のシミュレーション: Aβ は疾患リスクの指標となるか
東京大学医学部附属病院薬剤部 石田 崇朗
- 020 血清アルブミン Aβ 複合体は, アルツハイマー型認知症の髄液バイオマーカーと相関する
大阪市立大学医学部老年科神経内科 山本 圭一
- 021 アルツハイマー病における体液中バイオマーカーの解析; J-ADNI 研究
バイオテクノロジー開発技術研究組合 月江 珠緒
- 022 進行性失語の原因疾患の診断と治療の可能性: 脳脊髄液バイオマーカーの観点から
昭和大学横浜市北部病院内科神経 福井 俊哉
- 023 Multiple Antigenic Peptide (MAP) 作成技術を用いた BAN50 SAS-ELISA の標準化
京都府立医科大学医学部神経内科 笠井 高士
- 024 ヒト脳メタボローム解析によるアルツハイマー病低分子バイオマーカー探索研究
静岡県立大学薬学部 井之上浩一
- 025 アルツハイマー病における虚血性白質病変と炎症性バイオマーカー, 認知機能との関連
秋田県立脳血管研究センター神経内科学研究部 高野 大樹
- 026 正常圧水頭症はアルツハイマー病と異なるバイオマーカープロファイルを持つ疾患である
京都大学大学院医学研究科脳病態生理学講座臨床神経学 陣上 直人

<認知症における基礎研究 (諸蛋白, 抗体等をめぐって)>

- 027 野生型マウスを用いた内在性タウのリン酸化亢進モデルの作製
埼玉医科大学大学院医学研究科医科学専攻生体機能科学分野 鈴木 星也
- 028 タウの蓄積による神経細胞死に対する選択的オートファジー関連因子 p62 の神経保護作用
独立行政法人放射線医学総合研究所分子イメージング研究センター 小野麻衣子
- 029 アルツハイマー型認知症における抗 P5 抗体による検討
京都大学大学院医学研究科薬剤疫学分野 本城 靖之
- 030 アルツハイマー病脳におけるオルニチン代謝産物関連因子の免疫組織化学的検討
名市大大学院医学研究科地域医療教育 赤津 裕康
- 031 質量分析装置によるアルツハイマー病患者脳中におけるリン酸化 HCNP の微量解析
名古屋市立大学医学部神経内科 松川 則之

- 032 アルツハイマー型認知症における糖鎖異常の解析と血液マーカーとしての可能性の検討
鳥取大学医学部生体制御学 谷口美也子
- 033 アルツハイマー型認知症スペクトラムにおける活性化血小板の検討
京都府立医科大学神経内科 村西 学
- 034 アルツハイマー型認知症における末梢血リンパ球サブセットの検討
埼玉医科大学総合医療センター神経内科 久保田昭洋
- 035 晩期発症型アルツハイマー病と *TREM2* の関連解析
新潟大学脳研究所 宮下 哲典
- 036 レビー小体型認知症脳における *hypocretin* 発現に関する神経病理学的検討
順天堂東京江東高齢者医療センター PET-CT 認知症研究センター 笠貫 浩史
- 037 紀伊半島の ALS/PDC における脳脊髄液中酸化ストレスの解析
三重大学大学院地域イノベーション学研究科紀伊神経難病研究センター 小久保康昌
- 038 CADASIL における活性化血小板マーカー
京都府立医科大学 水野 敏樹
- 039 認知症における血漿脂肪酸分画の検討
至誠会第二病院神経内科 宮崎 一秀
- 040 SAM P1 マウスを用いたヘルペスウイルス潜伏感染下アルツハイマー病モデル
福岡大学アニマルセンター 田中 聖一
- 041 アルツハイマー病におけるタンパク質ドメイン間相互作用ネットワーク解析
バイオテクノロジー開発技術研究組合 菊地 正隆
- 042 Retromer の加齢性局在変化と Dynein 機能障害との関係
国立長寿医療研究センター 認知症先進医療開発センター アルツハイマー病研究部 木村 展之
- 043 加齢関連糖タンパク質過剰発現マウスの解析
順天堂大学医学部脳神経外科学講座 中島 円
- 044 アルツハイマー病モデルマウス脳内に発現するケラタン硫酸糖鎖の構造機能解析
名大院・医・一生化 新美しおり
- 045 TDP-43 による翻訳関連遺伝子 mRNA の神経突起への輸送
国立精神・神経医療研究センター神経研究所疾病研究第五部 長野 清一
- 046 TERA/VCP/p97 の DNA 修復機能不全は複数の神経変性疾患に関与する
東京医科歯科大学難治疾患研究所神経病理学分野 藤田 慶大
- <アルツハイマー病と糖尿病等との関連>
- 047 2 型糖尿病とアルツハイマー病を結ぶ分子機構の解明
東京大学薬学系研究科臨床薬学 山口 一樹
- 048 アルツハイマー病／3 型糖尿病のインスリン抵抗性と分子治療戦略
九州大学医学研究院神経治療学 大八木保政
- 049 糖尿病はアルツハイマー病における恒常性維持機構を破綻させる
大阪大学大学院医学系研究科臨床遺伝子治療学講座 里 直行
- 050 運動は継続しなければ高脂肪食によるアルツハイマー病症状の悪化を改善できない
京都大学大学院医学研究科人間健康科学 前迫 真人

<アルツハイマー病の症例等の報告>

- 051 家族性および早発型アルツハイマー病症例における APP 重複変異の探索
新潟大学脳研究所遺伝子機能解析学 池内 健
- 052 アミロイド前駆体蛋白遺伝子に新規変異を認めたアルツハイマー病の 1 家系
神経内科千葉 篠遠 仁
- 053 アルツハイマー型認知症と診断され、アミロイド PET 検査で陰性であった 3 症例の考察
神戸大学大学院医学系研究科精神医学分野 山本 泰司
- 054 PIB-PET 所見などよりアルツハイマー病と考えられた posterior cortical atrophy の 3 症例
群馬大学医学部神経内科 池田 将樹
- 055 PiB-PET が確定診断に有効であった、家族性アルツハイマー病の一例
信州大学医学部脳神経内科, リウマチ・膠原病内科 中川 道隆
- 056 アルツハイマー型認知症の経過中に脳アミロイドアンギオパチー白質脳症を発症した 1 例
国家公務員共済組合連合会三宿病院神経内科 清塚 鉄人
- 057 Logopenic 型原発性進行性失語症 2 例の神経機能画像の検討
京都大学大学院医学研究科脳病態生理学講座臨床神経学 上田紗希帆
- 058 Logopenic progressive aphasia を呈した症例
信州大学医学部精神医学講座 福井 将郎
- 059 急速な認知機能の悪化と高度の不安感, 不全感を認めたアルツハイマー型認知症の一例
大阪市立大学大学院医学研究科神経精神医学 田川 亮
- 060 嫉妬妄想が前景化したアルツハイマー病の 1 剖検例
名古屋大学大学院医学系研究科精神医学・精神医療学 藤城 弘樹
- 061 J-ADNI 登録症例における初剖検例
東北大学加齢医学研究所老年医学分野 古川 勝敏

<HDLS 関連 (臨床・病理・基礎研究)>

- 062 一次進行性 MS の診断を受けていた神経スフェロイドを伴う遺伝性白質脳症 HDLS の男性例
国立病院機構徳島病院神経内科 乾 俊夫
- 063 Hereditary diffuse leukoencephalopathy with spheroids の一家系
藤元メディカルシステム大悟病院老年期精神疾患センター 井上 輝彦
- 064 神経軸索スフェロイドを伴う白質脳症 HDLS の臨床・画像・遺伝学的解析
新潟大学脳研究所神経内科 他田 正義
- 065 軸索腫大を伴う遺伝性びまん性白質脳症の SPECT 所見とその神経病理学的背景
信州大学医学部神経難病学 吉田 邦広
- 066 神経軸索スフェロイドを伴う白質脳症 HDLS の病態解析: ハプロ不全と CSF1R シグナル障害
新潟大学脳研究所神経内科 今野 卓哉
- 067 大脳白質病変を呈する HDLS, NHD, CADASIL, CARASIL の脳画像検討
信州大学医学部脳神経内科, リウマチ・膠原病内科 小林 千夏

<DLB, パーキンソン病, パーキンソニズム関連 (臨床・基礎)>

- 068 レビー小体型認知症患者における側頭頭頂連合野の糖代謝低下と臨床的特徴の関係
順天堂大学医学部附属順天堂東京江東高齢者医療センター
PET/CT 認知症研究センター 千葉 悠平
- 069 DLB の嗅球と中脳
東京医科大学老年病科 金高 秀和
- 070 ドーパミントランスポーター (^{123}I -FP-CIT) を用いた DLB の診断の有用性
東京医科大学老年病科 佐藤 友彦
- 071 パーキンソン病患者の認知機能障害重症度と脳血流変化
千葉大学大学院医学研究院神経内科学 平野 成樹
- 072 レビー小体型認知症鑑別のための主観的輪郭検査の有用性
順天堂大附属順天堂東京江東高齢者医療センター 太田 一実
- 073 Lewy 小体型認知症介護者記入式スクリーニング検査法の妥当性と有用性の検討
横浜新都市脳神経外科病院内科認知症診断センター 眞鍋 雄太
- 074 Lewy 小体型認知症治療における zonisamide の有効性の検討
横浜新都市脳神経外科病院内科認知症診断センター 眞鍋 雄太
- 075 レビー小体型認知症の BPSD に対する抗パーキンソン病薬の効果
東京都保健医療公社荏原病院精神科 重家 里映
- 076 生活習慣病からのアプローチしたレビー小体型認知症 DLB の早期診断・早期対応について
まつい栄養&認知症クリニック 松井 豊
- 077 レビー小体型認知症に対するゾニサミドの有用性に関する検討
横浜市立大学附属市民総合医療センター精神医療センター 小田原俊成
- 078 レビー小体病の補助診断に睡眠ポリグラフ検査が有用であった一例
名古屋大学医学部附属病院精神科 棟近 孝之
- 079 修正型電気痙攣療法により精神症状の改善を認めたレビー小体病の 2 例
医療法人静心会桶狭間病院藤田こころケアセンター 松永 慎史
- 080 パーキンソン病に対する視床下核脳深部刺激療法が認知機能に与える影響
千葉大学医学部附属病院神経内科 古川 彰吾
- 081 軽度認知機能障害を伴うパーキンソン病における視覚認知機能の検討
和歌山県立医科大学医学部神経内科 梶本 賀義
- 082 PD 患者の認知機能スクリーニング検査としての MOCA-J と MMSE についての検討
鳥取大学医学部附属病院脳神経内科学講座 田尻 佑喜
- 083 パーキンソン病患者の服薬状況に関するアンケート調査
順天堂大学神経学講座 波田野 琢
- 084 パーキンソニズムを呈する認知症における寝返りの検討
聖隷浜松病院神経内科 内山 剛
- <その他の神経変性疾患関連>
- 085 パーキンソン病と進行性核上性麻痺における臨床・神経放射線学的検討
岡山大学医学部神経内科 倉田 智子

- 086 全経過 16 年で高度な大脳萎縮を呈した皮質基底核変性症の 1 剖検例
 順天堂東京江東高齢者医療センター 近藤 大三
- 087 精神症状で初発する皮質基底核変性症の臨床病理学的検討
 岡山大学精神神経病態学 池田智香子
- 088 高齢サル脳にみられた 4R タウ陽性グリア—Corticobasal degeneration との類似性—
 東京都医学総合研究所脳病理形態研究室 内原 俊記
- 089 “preclinical PSP” の病理 —高齢者総合病院連続 324 剖検例における検討—
 東京都老人総合研究所高齢者ブレインバンク 野上 茜
- 090 脳容積拡散テンソル Voxel-Based Analysis MRI 画像による前頭側頭葉変性症大脳病変の特徴
 名古屋大学医学部神経内科 榊田 道人
- 091 舞踏病様不随意運動を呈する FTL D-FUS の臨床病理学的検討
 東京都医学総合研究所認知症プロジェクト 河上 緒
- 092 TDP-43 関連前頭側頭葉変性症における下位運動ニューロンの病理学的検討
 名古屋大学医学部神経内科 陸 雄一
- 093 剖検でえられた嗜銀顆粒性認知症 (AGD) の臨床像の検討
 小山田記念温泉病院神経内科 森 恵子
- 094 双極性感情障害における嗜銀顆粒の関与
 国立精神・神経医療研究センター病院臨床検査部 塩谷 彩子
- 095 各種の神経変性疾患に特異的な封入体・構造物における NBR1 の発現
 群馬大学医学部附属病院神経内科 牧岡 幸樹
- 096 ホモ接合体歯状核赤核淡蒼球ルイ体萎縮症の一部剖検例
 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科精神神経病態学 長尾 茂人
- 097 皮質下認知症の臨床像を呈したエオジン好性核内封入体病の一例
 大阪市立大学医学部老年内科・神経内科 武田 景敏
- <血管性認知症, 血管障害関連>
- 098 血管性認知症とアルツハイマー病との鑑別および co-morbidity に関する検討-2
 国立長寿医療研究センター脳機能診療部 新畑 豊
- 099 当院脳卒中外来における脳梗塞既往患者の認知・情動機能の検討
 岡山大学医学部神経内科 出口健太郎
- 100 脳卒中急性期患者の認知機能障害が在宅復帰および ADL 改善に与える影響
 信州大学医学部保健学科 務台 均
- 101 脳内深部白質病変および増悪における MR-proADM の検討
 京都府立医科大学医学部地域保健医療疫学 栗山 長門
- 102 頸動脈狭窄症による軽度認知障害の脳波と Mini Mental State Examination との関連
 富山県済生会富山病院脳卒中センター脳神経外科 柴田 孝
- 103 脳アミロイド血管症の 2 症例: RPLS との関連
 京都大学医学部神経内科 齊藤 聡
- 104 脳アミロイドアンギオパチー関連炎症の画像, 臨床症状, バイオマーカーの検討
 新潟大学脳研究所 徳武 孝允

- 105 増大した器質化慢性硬膜下血腫
愛仁会高槻病院脳神経外科 砂田 一郎
- 106 変異型 Notch3 ノックインマウスを用いた CADASIL の病態解析
独立行政法人国立長寿医療研究センター研究所 渡邊 淳
- <正常圧水頭症, 筋疾患, プリオン病, CO 中毒, てんかん, アルコール依存症等関連>
- 107 Duchenne 型筋ジストロフィー患者における高次機能障害の検討
熊本再春荘病院神経内科・臨床研究部 増田 曜章
- 108 治療可能な認知症である特発性正常圧水頭症 (iNPH) の治療上における注意点
白庭病院脳神経外科 青山 雄一
- 109 β アミロイドが蓄積した特発性正常圧水頭症とアルツハイマー病の比較
独立行政法人国立長寿医療研究センター認知症先進医療開発センター
脳機能画像診断開発部 文堂 昌彦
- 110 孤発性クロイツフェルト・ヤコブ病の生存期間に影響する因子の検討
愛知医科大学加齢医科学研究所 岩崎 靖
- 111 高齢発症した孤発性 Creutzfeldt-Jakob 病 11 例の臨床病理学的特徴と加齢性変化
愛知医科大学加齢医科学研究所 三室 マヤ
- 112 プリオン病の診断における単一光子放射断層撮影 (SPECT) 画像の有用性について
NHO 静岡てんかん神経医療センター神経内科 荒木 邦彦
- 113 急速進行性の認知症を呈した間歇型一酸化炭素中毒の 67 歳女性例
平塚共済病院神経内科 中江 啓晴
- 114 もの忘れ外来を受診したてんかんの症例について
信州大学医学部精神医学講座 多田はるか
- 115 アルコール依存症者の脳萎縮におけるアセトアルデヒド脱水素酵素遺伝子多型の関与
杏林大学医学部高齢医学 松井 敏史
- <アミロイド, タウ の神経画像関連>
- 116 新規アミロイドイメージング製剤 [^{18}F] フルテメタモールと [^{11}C] PiB の比較
大阪市立大学大学院医学研究科老年科, 神経内科 安宅 鈴香
- 117 アミロイドの初期蓄積段階の判定に有用な PiB-PET の SUVR カットオフ値の検討
国立長寿医療研究センター脳機能画像診断開発部 加藤 隆司
- 118 軽度認知障害 (MCI) を対象としたアミロイド PET 画像の検討
大分大学医学部神経内科学講座 石橋 正人
- 119 PiB 陽性 MCI における APOE4 の PiB 取り込み, 局所脳萎縮への効果
J-ADNI PET コア 高橋 竜一
- 120 アルツハイマー病の新たなアミロイドマーカー [^{18}F]-Flutemetamol による PET imaging
湘南厚木病院 畑下 鎮男
- 121 PiB PET 集積とアミロイド β 免疫染色とチオフラビン S 染色の剖検例における検討
東京都健康長寿医療センター高齢者ブレインバンク (神経病理) 初田 裕幸
- 122 糖尿病性認知症のアミロイド PET 画像による解析
東京医科大学病院老年病科 深澤 雷太

- 123 $[^{18}\text{F}]$ THK-5105 PET を用いたアルツハイマー病タウ病理像の生体画像化
東北大学大学院医学系研究科機能薬理学分野 岡村 信行
- 124 タウイメージング用トレーサー $[^{18}\text{F}]$ THK-5117 の前臨床評価
東北大学大学院医学系研究科機能薬理学分野 原田 龍一
- 125 $[^{11}\text{C}]$ PBB3 PET によるタウイメージング
放医研分子イメージング 島田 斉
- <MCI, 早期診断等関連>
- 126 MCI 脳糖代謝分布パターンの多様性解析と AD への移行予測
京都大学大学院医学研究科脳機能総合研究センター 大石 直也
- 127 NAT による認知症の早期診断
株式会社脳機能研究所 武者 利光
- 128 視空間ワーキングメモリ課題による前臨床期のアルツハイマー病検出の可能性
国立長寿医療研究センター脳機能画像診断開発部 加藤 公子
- 129 認知症スクリーニング検査と画像検査の乖離した群の探索眼球運動の特徴
久留米大学高次脳疾患研究所 小路 純央
- 130 MMSE, HDS-R, RBMT (リバーミード行動記憶検査) 相互の関連: 連続 1036 例での検討
静岡赤十字病院神経内科 小張 昌宏
- 131 認知機能障害患者における脳萎縮の割合と認知機能との関連
京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻 谷川 貴則
- 132 地域在住高齢者における Cardio-Ankle Vascular Index と認知機能との関連
京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻 行武 大毅
- 133 軽度認知障害における脳血管障害と動脈硬化・生活習慣の関連
相模台病院 新井 久稔
- 134 軽度認知機能障害における, 血中ビタミン濃度と認知機能障害との関連性について
医療法人創和会しげい病院神経内科 辻 拓司
- 135 軽度認知障害に対する 3 群 RCT 前向き介入 (1): 外的評価-栗原プロジェクト
東北大学大学院医学系研究科高齢者高次脳医学 中塚 晶博
- 136 軽度認知障害に対する 3 群 RCT 前向き介入 (2): 内的評価-栗原プロジェクト
東北大学大学院医学系研究科高齢者高次脳医学講座 中村 馨
- 137 認知症判定における簡易観察尺度 AD8 の妥当性と認知症の発症率-栗原プロジェクト
東北大学大学院医学系研究科高齢者高次脳医学 葛西 真理
- 138 地域包括支援センターにおける認知症スクリーニング機能の妥当性: 栗原プロジェクト
東北大学大学院医学系研究科高齢者高次脳医学 高田 純子
- <MRI, MRS, 脳磁図等関連>
- 139 アルツハイマー病患者の microbleeds と無症候性虚血性病変との関連についての検討
翠清会梶川病院脳神経内科 大下 智彦
- 140 グルタミン酸・グルタミン濃度と認知機能検査との相関: 1-MRS を用いて
宇治武田病院神経内科 渡辺 俊之

- 141 preMCI 症例における MRS と VBM の比較
滋賀医科大学 MR 医学総合研究センター 椎野 顯彦
- 142 1.5T と 3.0T 装置による 3D 脳 MRI の VBM 解析結果の比較
国立精神・神経医療研究センター脳病態統合イメージングセンター 松田 博史
- 143 アルツハイマー病における内側側頭葉の萎縮：VSRAD advance を用いた左右差の検討
新潟大学脳研究所神経内科 手塚 敏之
- 144 乖離群の VSRAD プラス解析とアドバンス解析および経過について
久留米大学高次脳疾患研究所 山下 裕之
- 145 外来通院の認知症患者の MRI 解析
宇治川病院脳神経外科 河本 圭司
- 146 地域住民における amnesic MCI と脳灰白質萎縮関連因子の検討
鳥取大学医学部脳神経内科 山本 幹枝
- 147 安静時 fMRI による脳内の機能的連結の評価 — 開眼と閉眼のどちらがよいか？ —
国立長寿医療研究センター脳機能画像診断開発部 岩田 香織
- 148 Alzheimer 病に伴う大脳皮質興奮性の変化：脳磁図による検討
国立長寿医療研究センター脳機能画像診断開発部 中村 昭範
- <薬物療法関連（基礎から臨床へ）>
- 149 末梢血投与型・脳内発現ウイルスベクターの開発とアルツハイマー病の実験的遺伝子治療
長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 岩田 修永
- 150 アルツハイマー病に対するスタチンの NVU への保護効果の検討
岡山大学医学部神経内科 倉田 智子
- 151 アルツハイマー病マウスの記憶機能障害に対するコリンエステラーゼ阻害剤の改善効果
東京大学大学院新領域創成科学研究科先端生命科学専攻 松田 孟士
- 152 Memantine のマウス脳虚血・再灌流負荷時における NO とヒドロキシラジカル代謝への影響
埼玉医科大学神経内科 伊藤 康男
- 153 メマンチン投与中に眠気が出現した患者の経過
柏戸病院神経内科 柏戸 孝一
- 154 MoCA-J を用いたメマンチンの中核症状の評価
榊原白鳳病院 笠間 睦
- 155 Memantine は単独で中等度～重度 AD 患者の攻撃性を改善する
慈恵中央病院精神科 小川 直志
- 156 メマンチンの BPSD に対する効果と介護負担感に与える影響についての検討
医療法人生会まつかげシニアホスピタル認知症疾患医療センター 山下 功一
- 157 アルツハイマー型認知症における donepezil と memantine の継続に関する後方視的検討
関西医科大学精神神経科学教室 越川 陽介
- 158 ドネペジルとメマンチン併用療法の有用性 — ADAS および SPECT を用いた検討 —
東京医科大学八王子医療センター老年病科 金谷 潔史
- 159 ガランタミンおよびメマンチンの治療効果 — 神経心理テストを中心に —
済生会横浜市東部病院脳神経センター脳血管・神経内科 村松 和浩

- 160 アルツハイマー型認知症治療におけるガランタミンの特定使用成績調査の中間報告
ヤンセンファーマ株式会社サイエンティフィックアフェアーズ本部 CNS 部 人見真理子
- 161 リバスチグミンの神経保護作用機序ならびに認知機能障害改善作用の解析
京都薬科大学病態生理分野 高田 和幸
- 162 リバスチグミン貼付薬（イクセロン[®]パッチ）の実践的投与経験
群馬大学大学院保健学研究科 山口 晴保
- 163 アルツハイマー病に対するリバスチグミン治療と認知機能・改訂クリクトン尺度の変化
市立四日市病院脳神経内科 石原 哲郎
- 164 リバスチグミンパッチの介護者からみた有用性 ～KNS（鹿児島認知症サポート）study～
市比野記念病院内科 黒田 篤
- 165 リバスチグミン少量投与 120 例の治療成績
誠弘会池袋病院脳神経外科 平川 亘
- 166 入院患者の「せん妄」に対するリバスチグミンの治療効果
誠弘会池袋病院脳神経外科 平川 亘
- 167 リバスチグミンパッチ剤により間質性肺炎が惹起されたアルツハイマー型認知症の 1 例
筑波大学医学医療系臨床医学域精神医学 久永 明人
- 168 Alzheimer 病患者における AChE 阻害薬 3 剤の作用部位に対する SPECT を用いた検討
東京医科大学老年病学教室 清水聰一郎
- 169 神経内科専門診療所における新規抗認知症薬の使用状況
微風会三次神経内科クリニック花の里 織田 雅也
- 170 各種認知症治療薬の効果の相違— ADAS-Jcog および SPECT による比較—
日本大学薬学部薬事管理学 川邊 一寛
- 171 認知症における *Withania somnifera* の使用経験
刈谷豊田総合病院神経内科 菱川 望
- 172 ノビレチン高含量陳皮のアルツハイマー病患者の認知機能に対する効果の検討
東北大学大学院医学系研究科高齢者高次脳医学 関 隆志
- 173 抗アミロイドβ抗体 Solanezumab の臨床試験結果—日本人被験者での結果—
日本イーライリリー株式会社 並木 千尋
- 174 認知症患者に対するシロスタゾールの治療効果の検討
誠弘会池袋病院脳神経外科 平川 亘
- 175 抑肝散加陳皮半夏の認知機能改善作用と脳酸素動態及び細胞外 K⁺に及ぼす影響
クラシエ製薬株式会社漢方研究所 藤田 日奈
- 176 重症の Restless legs syndrome に対して抑肝散が有用であった認知症の 1 例
医療法人山口病院（川越） 奥平 智之
- 177 認知症患者に発生した慢性硬膜下血腫に対する柴苓湯の有用性
健和会病院脳神経外科 北原 正和
- 178 IVIg 療法によるアルツハイマー病患者の認知機能維持効果と sink 効果との関連
京都府立医科大学分子脳病態解析学 徳田 隆彦

<薬物以外の治療関連>

- 179 認知症の近赤外光治療と近赤外光診断の可能性
所沢中央病院脳神経外科 苗代 弘
- 180 認知症患者に対する高照度光療法の効果 - 予備研究 -
ミサトピア小倉病院 関口 裕孝
- 181 アルツハイマー病に対するカラオケを用いた音楽療法：神経心理学的検討と fMRI 実験
三重大学大学院医学系研究科認知症医療学講座 佐藤 正之
- 182 大阪市立大学附属病院におけるグループ回想法の試み
大阪市立大学大学院医学研究科老年内科・神経内科 横手 歩
- 183 認知機能障害では早期に治療を開始するほど進行例が少なくなる
医療法人長寿会清原龍内科 清原 龍夫
- 184 「症状」ではなく「生活」を診る AD 診療——認知機能より「張り合い」に焦点
日本医科大学精神医学教室 上田 諭

<認知機能障害関連>

- 185 Alzheimer 病と Parkinson 病における認知機能障害の鑑別診断についての多施設共同研究
国家公務員共済組合連合会立川病院神経内科 太田 晃一
- 186 東日本大震災により仮設住宅に入居した高齢者における認知機能の評価
東北大学加齢医学研究所老年医学分野 石木 愛子
- 187 グループホームで暮らす認知症高齢者の主観的 QOL と関連する因子の検討
介護老人保健施設ロングライフ塩尻 中西 康祐
- 188 認知機能障害を有する高齢者の治療同意能力についての検討
岡山大学大学院医歯薬学総合研究科精神神経病態学教室 大島 悦子
- 189 地域高齢住民における認知機能、運動機能、精神機能の縦断的検討
鳥取大学医学部脳神経内科 田中健一郎
- 190 アンケート形式の質問票による認知症スクリーニングの有用性の検討
和歌山県立医科大学神経内科 檜皮谷泰寛
- 191 認知症患者における総合機能評価
東京医科大学病院老年病科 波岡那由太
- 192 高齢者認知機能と年齢、教育年数との関係：その変動病態の検討
国立長寿医療研究センター脳機能画像診断開発部 倉坪 和泉
- 193 地域脳健診参加者と非参加者の認知症及び軽度認知障害の有病率は異なる
金沢大学医薬保健研究域医学系脳老化・神経病態学（神経内科学） 篠原もえ子
- 194 もの忘れチェックリストの有効性の検討
独立行政法人国立長寿医療研究センターもの忘れセンター 武田 章敬
- 195 MoCA-J と ACE-R 有用性の検討
せんぼ東京高輪病院もの忘れ外来（神経内科） 津本 学
- 196 高齢者の臨床場面での遂行機能低下について～トレイルメイキング検査を用いての検討～
東京都健康長寿医療センター高齢者バイオリソースセンター 小幡 真希

- 197 人間ドック受診者を対象とした脳 FDG-PET 検査と結果告知が及ぼす心理変化の検討
慶應義塾大学医学部神経内科 伊達 悠岳
- 198 前頭葉機能障害を認めた 9 症例— BADS と WCST を用いた検討—
愛知医科大学精神科学講座 深津 孝英
- 199 認知機能の縦断的变化と大脳白質病変との関連
名古屋大学医学部附属病院老年内科 牧野多恵子
- 200 「顔」記憶検査を用いた Alzheimer 病に伴う記憶機能変化の検討
(独) 国立長寿医療研究センター脳機能画像診断開発部 山岸未沙子

<認知機能低下と生物学的諸検査関連>

- 201 NAT パターンと海馬萎縮の関係～脳電位による診断の可能性に向けて～
株式会社脳機能研究所 小林 洋平
- 202 大脳白質病変を伴うアルツハイマー病と血管危険因子の関連性に関する検討
住友病院神経内科 當間圭一郎
- 203 初診時アルツハイマー型認知症における高次脳機能と血中総ホモシスチン値に関する検討
加東市民病院 前田 真伸
- 204 地域高齢者住民の総ホモシステインと認知機能の縦断的検討
鳥取大学医学部脳神経医科学講座脳神経内科学分野 中下 聡子
- 205 高齢認知症における移動準備動作および準備量に対する動的脳血流量分布の検討
敬仁会桔梗ヶ原病院 中居 龍平
- 206 アルツハイマー病患者の前頭前野における課題遂行時脳血流反応の特徴
浜松医科大学生体機能イメージング 大星 有美
- 207 単一しりとり課題施行中の酸素化ヘモグロビンの変動：老年期の認知機能の特徴
久留米大学高次脳疾患研究所 加藤 雄輔
- 208 VSRAD, eZIS に影響を与える要因（長谷川式認知症スケールとの相関）について
和歌山ろうさい病院神経内科 石本 進士
- 209 バルサルタンの高齢者高血圧患者における事象関連電位 P300 と神経心理検査への効果
名古屋市立西部医療センター神経内科 片田 栄一
- 210 アルツハイマー型認知症患者における自律神経機能と認知機能の関係
名古屋大学医学部附属病院老年内科 野々垣 禅

<認知機能低下に関する身体と身体機能関連>

- 211 都市部居住認知症患者の自動車の運転状況について（第 2 報）
大阪市立弘済院附属病院認知症疾患医療センター 河原田洋次郎
- 212 リハビリテーションセンターでの認知症診療—認知機能と運動・嚥下機能との関係—
社会医療法人愛仁会高槻病院リハビリテーション科 樺 篤
- 213 アルツハイマー病における歩行機能と 1 日運動量の解析
東京医科歯科大学大学院脳神経病態学（神経内科） 三條 伸夫
- 214 アルツハイマー病と MCI 患者に対する生活習慣病の影響
名古屋大学医学部附属病院老年内科 柳川まどか

- 215 取下げ
- 216 嚥下障害を伴う認知症患者に対する咳テストの検討
医療法人静心会桶狭間病院藤田こころケアセンター 近藤奈緒子
- 217 認知症治療経過中に生じた身体的偶発症についての検討
山口大学大学院医学系研究科神経内科学 川井 元晴
- 218 アルツハイマー病増悪因子としての歯周病の可能性
国立長寿医療研究センター研究所口腔疾患研究部 松下 健二
- 219 アパシーとうつ 経験症例からの考察
医療法人生生会まつかけシニアホスピタル認知症疾患医療センター 山下 功一
- 220 血清抗コリン活性が認知症とうつを鑑別する
東京都立東部療育センター 小西 公子
- 221 NIRS を用いた老年期うつ病とアルツハイマー病の大脳皮質賦活反応性についての検討
信州大学医学部精神医学講座 鬼頭 恆
- 222 大腿骨近位部骨折術後リハビリテーションに認知症の行動心理症状が及ぼす影響
東北大学大学院肢体不自由学分野 田中 尚文
- 223 認知症の BPSD と臓器障害：東洋医学的「心・脾」障害の予備的検討—田尻プロジェクト
東北大学大学院医学系研究科高齢者高次脳医学 関 隆志
- 224 BPSD を有する認知症に対する新しい Strategy —特に短期入所に対する試み—
医療法人社団秀慈会介護老人保健施設萩の里 大平 政人
- 225 アルツハイマー型認知症における BPSD と大脳皮質下病変・脳萎縮との関連
国立長寿医療研究センターもの忘れセンター 大釜 典子
- 226 クロルプロマジンで改善がみられた強い BPSD
医療法人辰川会山陽病院内科 岩本 竜一
- <介護関連>
- 227 介護うつに影響する認知症患者の要因
神戸大学大学院医学研究科精神医学分野 長谷川典子
- 228 認知症患者と介護者のレジャー活動への共同参加による介護者の負担感の軽減方法の開発
愛知県立大学看護学部 平野 明美
- 229 軽度認知障害を有する患者の介護負担
岡山大学大学院医歯薬学総合研究科精神神経病態学 林 聡
- 230 アルツハイマー型認知症の家族の態度の検討 — Family Attitude Scale (FAS) を用いて—
救世軍ブース記念病院精神科 石原 裕之
- 231 介護者の認知症治療効果の実感は患者の意欲と活動性の改善にある
東京女子医科大学附属成人医学センター 松村美由起
- 232 おひとりさま講習会参加者における認知症の理解
札幌医科大学医学部神経内科 齊藤 正樹
- 233 認知症患者および家族への多職種による早期教育的支援の効果
京都大学こころの未来研究センター上廣こころ学研究部門 清家 理

- 234 認知症介護者の介護負担に影響する要因と介護者指導の効果
東京医科大学高齢者総合医学講座 櫻井 博文
- 235 介護支援専門員の認知症の知識向上のための教育プログラムの効果に関する検討
名古屋大学大学院医学系研究科地域包括ケアシステム学寄付講座 鈴木 裕介
- 236 「もの忘れデイケア」による若年性認知症患者の生活支援
筑波記念病院精神科 山里 道彦
- 237 通所介護事業所と居宅介護支援事業所における抗認知症薬と心理社会的介入の調査
東北大学大学院医学系研究科高齢者高次脳医学寄附講座 青木 博
- 238 グループホーム在住の認知症高齢者の要介護度におよぼす口腔環境の影響
株式会社オルトメディコ研究開発部 鈴木 直子
- <チーム医療，地域の病院等の役割，病院等における現状分析関連>
- 239 高齢入院患者の謾妄に対するチーム医療の試み
市立四日市病院脳神経内科 家田 俊明
- 240 栄養不良認知症患者における栄養サポートチーム介入効果
NHO 熊本再春荘病院神経内科 石崎 雅俊
- 241 もの忘れセンターにおける薬剤師外来の取り組み
国立長寿医療研究センター薬剤部 添田 美季
- 242 大阪市立弘済院における前頭側頭葉変性症の医療・ケアの実践報告
大阪市立弘済院附属病院神経内科・精神科 中西 亜紀
- 243 もの忘れクリニックがコーディネートする滋賀県の若年認知症対策：第一報
医療法人藤本クリニック 藤本 直規
- 244 物忘れ外来における「認知症と社会的環境の関係性」の分析 第一報 仮説立案
国立病院機構横浜医療センター 高瀬 昌浩
- 245 地方都市における認知症疾患医療センターへの相談ニーズと地域連携の課題
岩手医科大学神経内科・老年科 赤坂 博
- 246 認知症患者家族の意思決定を支援するツールとしてのKN式ケアパス概念図の作成
京都大学医学部附属病院老年内科 武地 一
- 247 荏原病院における認知症疾患医療センター開設後の初診患者層についての考察
東京都保健医療公社荏原病院精神科 青木 藍
- 248 千葉県認知症連携パスを用いた地域支援体制構築モデル事業
旭神経内科リハビリテーション病院 旭 俊臣
- 249 杏林大学医学部附属病院認知症疾患医療センターとしての役割
杏林大学医学部高齢医学・杏林大学病院もの忘れセンター 名古屋恵美子
- 250 地域における認知症早期診断体制の構築
大分大学医学部神経内科学講座 木村 成志
- 251 地元医師会との連携による認知症ネットワークの構築に向けた取り組み
駒ヶ根市役所保健福祉課 浜 達哉
- 252 広島県における認知症サポート医フォローアップ研修会の経過と課題
広島大学大学院脳神経内科学 丸山 博文

- 253 信州大学医学部附属病院精神科もの忘れ外来における患者の診断・治療・検査の動向
信州大学医学部精神医学講座 両川 晃子
- 254 当院におけるもの忘れ外来の受診状況の変遷
鳥取大学医学部脳神経内科 和田 健二
- 255 アルツハイマー病専門外来 42 例の検討
宇部リハビリテーション病院 沖野 基規
- 256 当院での初老期認知症の診断
小牧市民病院脳神経外科 飯塚 宏
- 257 一般病院の医師に対する認知症教育
独立行政法人国立長寿医療研究センター脳機能診療部 山岡 朗子
- 258 非看護系ケアマネジャーの認知症知識習得ニーズ
名古屋大学大学院医学系研究科地域包括ケアシステム学寄附講座 廣瀬 貴久
- 259 神経難病疾患の授業における看護学生の終末期医療の意識の変化
獨協医科大学神経内科 渡邊 由佳
- 260 地域連携の観点からみた正常圧水頭症の診療
菊池中央病院脳神経外科 曾山 直宏
- 261 地域脳健診の受診行動に関連する心理的態度の検討
金沢大学医薬保健研究域医学系脳老化・神経病態学 柚木 颯偲